

## 1586年三陸における津波は「みなしご津波」か「偽津波」か？

佐竹 健治\*(東京大学 地震火山史料連携研究機構・地震研究所)

### § 1. 1586年ペルー地震

1586年7月9日にペルーで発生した地震は、Limaに被害をもたらした最古の地震であり、多くの建物が全壊したが、死者は50名以下であった。Soloviev and Go (1975) のカタログでは、この地震による津波の高さはペルーの Callao で 24 m、宮城県本吉郡南三陸町戸倉で 1-2 m とされ、NOAA の津波データベースにもこれらが掲載されている。

ペルーの歴史地震の規模を詳細に検討した Dorbath et al.(1990, BSSA)によれば、1586年地震の規模は1974年のペルー地震(Mw 8.1)と同程度であり、震源の長さは175 km程度であったようだ。Callaoでの津波の高さについては、3.7 m 及び 24 m という証言があるが、他の津波と比較して後者は誇張されていると判断され、津波の高さは5m程度であったとしている。Okal et al. (2006, BSSA)はペルー(5 m)と日本の津波高さ(2 m)とを同時に説明できるようなモデルを作ることができないとしている。

最近、Butler et al. (2017, Natural Hazards)はハワイ諸島での津波石(サンゴ)の年代から、1572±21年にアリューシャン諸島で津波が発生したと推定し、1586年の三陸津波の起源はこれであろうと推定した。

### § 2. 三陸地方における1586年の津波

三陸沿岸では古くから近地及び遠地の津波が記録されており、遠地津波で最も古いものが1586年のペルー地震による津波とされている(例えば、渡辺, 1998)。ところが、三陸地方で記録された1586年の津波については、歴史文書が存在しない(Tsuiji et al., 2013, 津波工学研究報告)。では、どのようにして1586年のペルー地震が日本で記録された、とされてきたのだろうか？

1960年チリ津波の後に三陸沿岸の歴史津波をまとめた二宮(1960, 東北研究)は、本吉郡戸倉村に天正十四年五月十四日(1586年6月30日G, 同6月20日J)に海嘯があったという口碑と、理科年表に掲載されていた1586年7月9日のペルー地震とを「地震月日と相当喰い違いがあり、対照はむづかしい」としながらも対比している。二宮(1960)は、昭和三陸津波後に出版された国富(1933, 験震時報)を根拠としているが、国富(1933)は、明治三陸津波後に刊行された『宮城県海嘯誌』を参照したようである。

『宮城県海嘯誌』には「天正十三年乙酉十一月二十九日、夜亥時、至子時、地大震、畿内及東海、東山北陸三道殊甚、地裂水湧、屋舎毀壞、壓死者無算、

是時浜海水溢、溺死者数多、斯後震動十二日 按ずるに県下本吉郡戸倉村民の口碑に天正十三年五月十四日海嘯ありしと云うもの蓋し之を指すか」とあり、戸倉での口碑を紹介し、これを同年に中部地方で発生した天正地震と対比しようとしている。

### § 3. 戸倉における津波口碑

東日本大震災後、三陸沿岸における津波伝承が改めて注目されている。南三陸町戸倉水戸辺では寺の和尚が経文を唱えたところ津波が収まった、あるいは助かったという伝承があるという(蝦名, 2015, 津波工学研究報告)。また、同地区の西條實氏が祖父から伝え聞いた話によれば、1611年(慶長十六年)の津波は、水戸辺川を遡上して各地に被害をもたらし、それにちなんだ沢の名前が付けられたという『戸倉路のつたえ～語り継ぐ津波の道標～』。蝦名(2015)は、近世の史料から、江戸時代には津波の口碑が存在していたことを確認している。

なお、上記『宮城県海嘯誌』では、慶長津波について、本吉郡大谷村(現、気仙沼市)での口碑を紹介しているが、戸倉村については言及していない。

### § 4. 議論と結論

上記の証言通り、戸倉で過去の津波についての口碑が存在したことは間違いないが、これが1586年ペルー地震によるものである可能性は非常に低いと思われる。

明治三陸津波後の調査時には、口碑の津波発生日は天正十四年五月十四日とされていた。そもそもこの年月日の信頼性は疑問であり、調査者は同年の天正地震と対比しようとしていた。ところが、1960年チリ津波の後に、上記の津波が、月日は異なるものの、同年に発生したペルー地震と対比されてしまった。

また、戸倉の口碑では、単に海嘯ありしとされているが、これに基づいて津波の高さは1-2 m(Soloviev and Go), 2 m, 2.5 m(NOAA データベース)とされている。さらには、この津波の高さを説明すべき数値シミュレーションさえ試みられている。

以上の検討から、1586年の津波は「みなしご津波」(Butler et al., 2017)ではなく、「偽津波」とであると結論付けられる。